

ひゅーまんらいつ

令和2年度 第11号



「もう一度めぐみちゃんに会いたい。」 北朝鮮による日本人拉致被害者家族 横田滋さんの言葉

今から40年以上前、日本海に面した新潟の町から一人の少女がこつぜん姿を消しました。

○ 拉致された13歳の少女 横田めぐみさん

1977年、昭和52年11月15日、横田めぐみさんは、いつものように、お父さん、お母さん、双子の弟とにぎやかに朝ご飯を食べ、中学校に出かけていきました。そして、これが家族にとってめぐみさんを見た最後になってしまったのです。その日の夕方、クラブ活動のバドミントンの練習を終えて帰ってくるはずのめぐみさんは、いつもの時間になっても帰ってきませんでした。家族は、心配になって、必死でめぐみさんを探しました。警察も誘拐や事故、家出、自殺などあらゆることを想定して捜査を進めました。けれど、目撃者も遺留品さえも見つかりませんでした。

○ その夜めぐみさんは…

ずっと後になって出てきた証言によると、お父さんとお母さんが必死でめぐみさんを探していたとき、めぐみさんは北朝鮮の作業員に連れ去られ、40時間もの間、北朝鮮に向かう船の中の真っ暗で寒い船倉に閉じ込められていたのです。めぐみさんは「お父さん、お母さん」と泣き叫び、出入り口や壁などあちこちを引っかいたので、北朝鮮に着いたときには、手の爪がはがれそうになって血だらけだったと言われています。

○ 家族の悲しみの日々

めぐみさんがいなくなった日から、家族の生活は一変しました。にぎやかだった食卓は火が消えたようになりました。お父さんは毎朝少し早めに家を出て海岸を見て回りました。お母さんも、家事を終えると町のあちこちを歩き回り、めぐみさんの名前を呼びながら海岸を何キロも歩きました。

夜になると、お父さんはお風呂で泣きました。お母さんも、家族に分からないように一人で泣きました。どうしてこんな悲しい目にあうのだろう、もう死んでしまいたい、とも考えました。そんな悲しみと苦しみの中、手がかりもないまま時は流れました。

○ めぐみさんが生きている!

それから20年後、平成9年(1997)1月21日めぐみさんが北朝鮮の平壤(ピョンヤン)で生きているという情報が入ったのです。お父さんの滋(しげる)さんとお母さんの早紀江(さきえ)さんは「横田めぐみ」の実名を公表しました。新聞や雑誌が一斉に報道し、国会でも取り上げられました。

平成14年(2002年)9月17日、小泉総理大臣(当時)は北朝鮮を訪問し、金正日(キム・ジョンイル)国防委員長と初の首脳会談を行いました。滋さんも早紀江さんも、これでやっとめぐみさんに会えるという大きな期待を抱きました。この日、金正日国防委員長は拉致を認め、謝罪したのです。しかし、北朝鮮からの情報は「横田めぐみ死亡」(5人生存、8人死亡、2人未入境)というショッキングなものでした。けれど、これは北朝鮮が一方向的に言ってきたことに過ぎません。平成16年、北朝鮮は、めぐみさんの「遺骨」を提出してきましたが、鑑定の結果、その一部からはめぐみさんのものとは違うDNAが検出されました。

2020年6月5日、横田滋さんは87歳でこの世を去りました。最後まで諦めず娘の帰還のために闘い続けました。「もう一度めぐみちゃんに会いたい」そう思い続けながら亡くなりました。北朝鮮による拉致問題はいまだに解決していません。

○ 北朝鮮は、なぜ日本人を拉致したのでしょうか。

真相はわかっていませんが、これについては、次のような説があります。すなわち、北朝鮮は、朝鮮戦争の休戦後も、韓国を社会主義化して朝鮮半島を統一しようとしてきました。しかし、当時、韓国人をよそおって北朝鮮から韓国にスパイを送り込むことは難しかったので、日本人をよそおって韓国にスパイを送り込むという方法が考えられました。そこで、日本人を北朝鮮に連れ去った上で、北朝鮮のスパイをその日本人になりすませたり、その日本人を北朝鮮のスパイに日本の習慣や日本語を教える先生にしたりしようとして、日本人を拉致したのです。

2002年10月、5名の帰国者が羽田に到着

中学入学当時のめぐみさん



めぐみさんをはじめ、拉致被害者は、かけがえのない人生を奪われました。その家族も、激しい悲しみの中で今も大切な人の帰りを待っています。拉致は重大な人権侵害です。一刻も早く、拉致被害者を救い出さなければなりません。めぐみさんの母、早紀江さんはこんなふうに語っています。「帰ってきたら、大自然の中につれていってあげたい。北朝鮮では盗聴器や隠しカメラを恐れながら、間違いをしないように一生懸命頑張ってると思うので、北海道の牧場のようところで、大の字に寝ころがって、『自由だよー!』って言わせてあげたいと思っています。」

あれから、40年以上たった今も、めぐみさんは北朝鮮に拉致されたままなのです。（内閣府 拉致問題対策本部HPより）

◎ あなたにもできること

家族を、人生を奪い去った北朝鮮による拉致。ある日突然連れ去られ、今も救出を待ち続けている…。それが、もしも自分だったら、自分の家族だったら。拉致問題という問題があり、いまだに解決していないことを知ってください。拉致問題に関心を持ってください。それが、この問題の解決のために、とても大切な一歩となるのです。

1・2年生 第4回人権・同和教育ホームルーム活動報告

令和3年2月4日実施

1年1組

主題 私たちと人権問題Ⅳ

「同和教育の解決を目指して」

- 平成28年12月に「部落差別解消推進法」が施行された。ここに、今もなお部落差別が存在していること、情報社会の進展によって部落差別の状況が変わってきていることが明記されている。「同和教育」を自分ごととしてとらえ、差別を解消していくために私たちが取るべき態度や行動について考える。

【みなさんの感想】

- ・ 差別は本当にいけないと改めて思った。差別をなくすためには、自分の身近な人にまずは伝えていくことが大切だと思った。また自分の周囲で差別されて苦しんでいる人がいたらその差別を止める人になりたいと思った。
- ・ 班での話し合いではあまり自分の意見を言うことができなかったの、もっと話せるようになりたいと思う。
- ・ 言葉や行動をしっかりと考えながら生活したい。どんな状況であっても差別はしてはいけないと感じた。

2年1組

主題 人権の歴史に学ぶⅣ

「戦後の解放運動」

- 戦後、平等な社会を実現するために、どのような努力が続けられてきたかを理解させるとともに、「部落差別解消推進法」が施行された現代社会の課題を認識させ、差別解消のために行動した人の生き方から私たちに何ができるかを学ぶ。

【みなさんの感想】

- ・ 文字が書けることや読めること、学校に来て勉強ができること、全て当たり前ではないことが当たり前前にできることに感謝したい。また、社会に出た時に共に支え合える大人になりたいと思う。
- ・ 何度も人権の授業をしてきたけれど、今回は今までで一番胸が苦しくなった。差別は絶対にしてはいけないことだと思う。何も悪いことはしていないのに平気で見えぬふりをして差別する。その人たちの感情がわからない。やっていいことととれないことは歴史で学んで証明されている。私は正しい知識を持って行動していきたい。



()年()組()番 氏名()